

「学ぶ喜び」につながる指導と評価の一体化

～社会科の資質・能力を育むことを目指し、「学ぶ喜び」につながる観点別の具体的な事例～

1 知識・技能

【学習問題を追究する】段階の「調査・見学したり資料を活用したりして調べる場面」において、ノートの記事内容や発言内容を通して評価した。

〈単元名「廃棄物を処理する事業」第4学年内容（2）〉

〔評価規準〕（第3、4時）

ノートや見学カードへの記述内容から、必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解している。

〔U児の見学カード〕

- ①ごみ計量器について
- ②プラットホームについて
- ③ごみピットとごみクレーンについて
- ④焼却炉について

〔M児の見学カード〕

- ・プラットホーム
- ・ごみを処理する場所
- ・ごみピット
- ・クレーンがかっこよかった

U児の見学カードには燃えるごみが処理される仕組みや順番について見学に行き見て聞いたりした内容が事項ごとに具体的に記述されていた。「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

M児の見学カードには、見学場所の様子は記述されているものの、燃えるゴミを処理する仕組みや順番については断片的な記述にとどまることから「努力を要する」状況（C）と判断した。

2 思考・判断・表現

【まとめる】段階の記事内容から「日本の農業の現状を改善することについて、学習したことを基に、生産者や消費者の立場などから多角的に考え説明しているか」を評価した。

〈単元名「米づくりのさかんな地域」第5学年内容（2）〉

〔評価規準〕（第10、11時）

日本の農業の現状を改善することについて、学習したことを基に、生産者や消費者の立場などから多角的に考え、説明している。

〔I児が書いた文章〕

農業での少子高齢化や後継者不足、消費者の食事の洋風化によって米の生産量や消費量が減っていて、米が日本で作られなくなるのではないかと心配されています。人手不足を解消するためのスマート農業が進んでいます。機会を家からスマホで操作できるので高齢者も一人で農業ができるので農業する人が将来増えればいいと思います。（中略）団体が農業すると機械が買えるなど大規模な農業ができます。人手不足などの課題を乗り越えて農業が楽にできるようになるので農業する人が増えてくれたらいいと思います。

〔J児が書いた文章〕

わたしは消費者に買ってもらえるために工夫をすればするほど農家に負担がかかり、ただでさえ後継者がいなくて高齢化になってきていて、やめてしまう人が増えると思います。そうすると問題がさらに深刻になってきます。そうならないためにも（中略）スマート農業を使うことができると思います。負担が少なくなるし熟練者の技術も分析しているので農業をやってみたくなる人も増えるのではないかと思います。反面そのような機械などはとても高額です。だから費用の貸し出しなどの取組も大切だと思います。

I児は、日本の米づくりに関わる社会の仕組みとそこに見られる社会の課題を捉えた上で、米づくりが抱える課題の影響を見いだしている点、新たな取組を進める人々の取組が社会の課題のどのような点を改善するのかを考えている点から、「おおむね満足できる」状況（B）を判断した。

J児は、I児における点を踏まえ、さらに米づくりへの関わり方とその効果を多角的に考えているため、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

3 主体的に学習に取り組む態度

【導入】段階の記事内容から、「前単元で立てた追究過程を振り返り、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価した。

〈単元名「事故や事件から人々の安全を守る」第3学年内容（3）〉

〔発言の内容やノートの記述内容から〕（第1/8時）

火災の時は、だれが、どこで、どのような働きをしているかという視点で、教科書や見学を通して調べて解決したよ。事故や事件も、地域の安全を守るための働きを同じ視点で見ればよいと思う。きっと警察や地域の人など様々な人の働きがあると思う。また、教科書や見学を通して問いを解決していきたい。

「火事の際は」「同じ視点で」などの記述から、前単元の学習状況を振り返っている。さらに調べるべきことを考え、予想や計画を立てていることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。